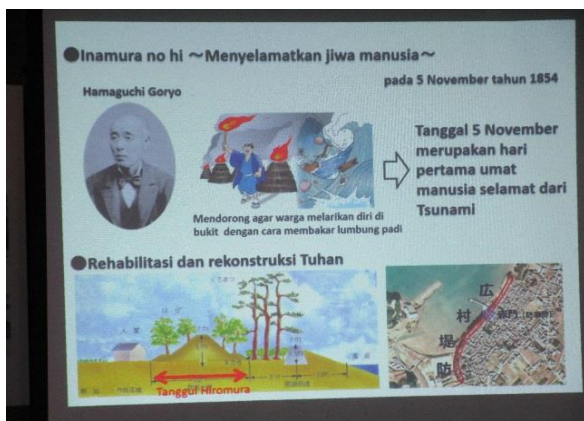


インドネシア アチェ津波博物館に
「稲むらの火」コーナー開設！

平成16年12月にスマトラ島沖地震・インド洋津波が起ったことは、皆様の記憶にも残っていることでしょう。昨年12月に国連で「世界津波の日」が制定されたのを機会にアチェ津波博物館との間で、提携の調印をして



いました。この度、ここに、ジャパン(和歌山・稲むらの火)コーナーが開設されました。「稲むらの火」の思想を世界へ広め、津波防災に役立てようという趣旨です。



上記のような、「稲むらの火」に関する写真パネルが何枚も展示されています。

年間30万人もの来館者を迎えるという「アチェ津波博物館」で「稲むらの火」の話が広まって、次の津波の際の避難行動に役立って欲しいものです。

「第4回稲むらの火講座」を開催

昨年度始めた「稲むらの火」講座は大勢の御参加をいただき、3回開催することができました。本年度も、引き続き開講いたします。

開会 7月16日(土)午前10時30分

講師 よしだ みどり先生

よしだみどり先生のご紹介



- ◎ 日本テレビ「ロンパールーム」の司会者として4年間活躍
- ◎ 著書に『知られざる「吉田松陰伝」』『金子みすゞ心の詩集』『竹内浩三楽書き詩集』など。『物語る人』で平成12年度日本文芸大賞「伝記・翻訳新人賞」受賞。
- ◎ 広川町へは何回か来られ、その時の印象記を雑誌に書いていただいています。「稲むらの火の館」見学にも来られています。

演題 「濱口梧陵と吉田松陰」

これまで同様、定員は100名です。電話 FAXでお申込みください。

電話 0737-64-1760

FAX 0737-64-1761

講演をお聞きいただくのは無料ですが、その後館内を見学される場合は有料とさせていただきます。

お問合せは、「稲むらの火の館」までお願いします。

<館長日記>

3月某日

岩手日報報道部次長が東日本大震災から5年という特集記事の取材として「稲むらの火の館」へお越しになりました。東北の被災地はまだまだ復興半ばというところのようですが、災害をどのように伝承していくかという課題があるようです。



岩手には「津波でんでんこ」という言葉があり、津波避難の教訓が伝えられています。当館の3D映画にもそのことを伝える映画も映していますが、それ

れも含めて取材されました。

5月某日

最近、「稲むらの火の館」のニュースが県内版の新聞によく掲載されています。もちろん全国版に載せられたことも何度かありましたが、各地の地方紙の取材の機会はありません。

この日は高知新聞の取材がありました。「世界津波の日」制定に関しての事でした。高知の黒潮町は南海トラフの巨大地震で最悪の場合は3.4、4mの津波という想定が出されて、その対策をされているようです。「世界津波の日」高校生サミットの総仕上げをされるということに関連しての取材でした。「稲むらの火」の11月5日が「世界津波の日」に制定されたからこそその遠くからの取材だったのでしょうか。

お客様の声

1、本日は皆様にお世話になり、とても良い見学が出来ました。どの場所でも偉大な方の人柄を、感激して涙を流しました。また、来させていただきます。

(由良町からの女性)

2、北海道の奥尻島で津波を経験しました。地震から数分で私の家まで津波がきたのですが、あの時祖父を背負って、祖母の手を引いて裏山めざして坂道を登りました。間一髪でみんなな助かりました。「稲むらの火」の話を知って前から来たかったのですが、今日やっと来れました。今は津波の語り部をしています。

(北海道から家族連れで来た男性)

こんな写真提供してくれました



これまで、昔の写真や「稲むら」(すすき)の写真の提供をお願いしていましたが、この程町内の女性の方から提供がありました。ありがとうございました。今後も募集しています。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL: 0737-64-1760 / FAX: 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

*開館時間：午前10時～午後5時（受付終了4時）

*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）

年末年始（12/29～1/4）

*記念館だけの入場は無料です。

